立命館大学技術士会

東日本大震災における、当事者の現状と動きの一例

関西県外避難者の会　福島フォーラム
代表　遠藤雅彦

自己紹介

◎　2007 年　立命館大学経済学部経済学科卒業　遠藤雅彦

家族構成　　：祖父・母・長男(雅彦)・次男
　　父は 2010 年 6 月に他界

地震の時に居た場所：自宅(祖父・母・長男)　仕事場(弟)

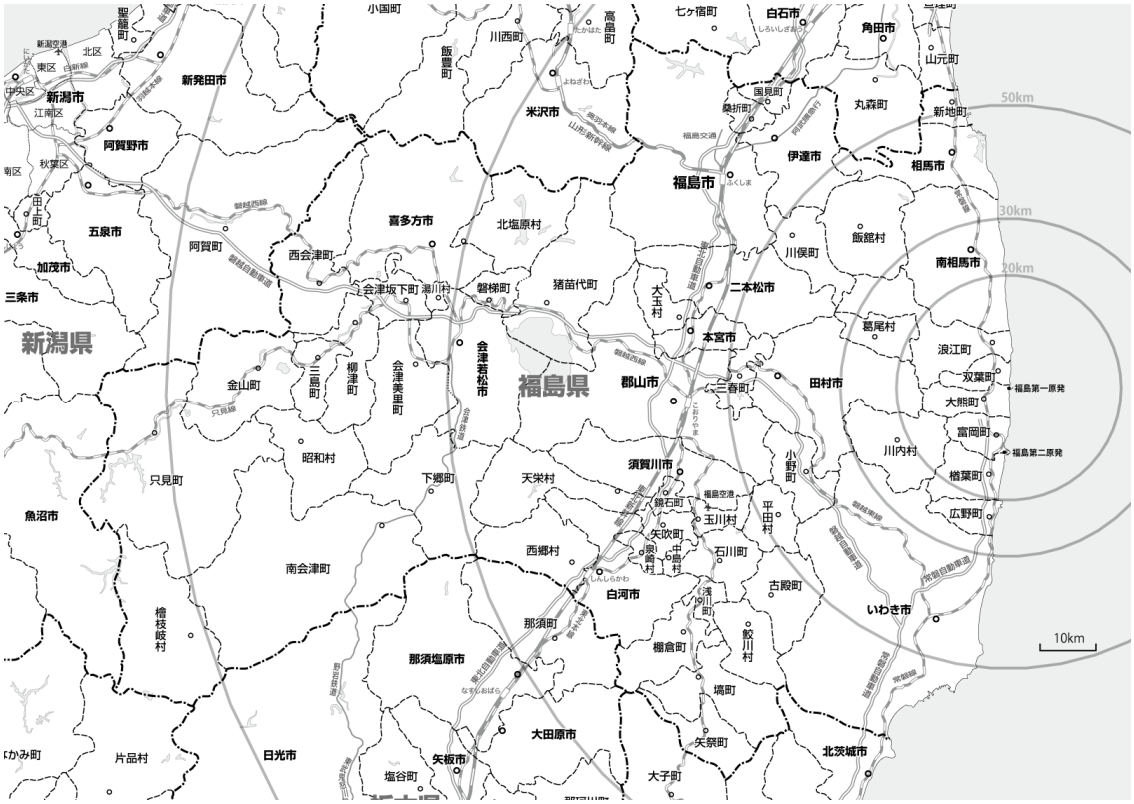
住所　　：福島県いわき市平豊間字塩屋町１９

自宅の前　　：豊間海岸

被災状況　　：住宅滅失　(流出)　大阪へ自主避難

※自主避難者は東京電力が補償の対象外としている。

福島県から避難するということ　大きさをイメージしてください。



福島県　　面積　1 万 3782.75 平方 km

大阪府　　面積　1896.83 平方 km　いわき市　面積　1,231.35 平方 km

津波からの避難

・ 地震が起きた時の周囲の様子

海の様子は変わらないが**雷・砂浜の異変**

周囲→塀は一部倒れたが家は健在

※写真は 15 時 04 分の砂浜の様子

・ 津波が来るまでの行動→**避難準備**を始めに行う。

避難開始は　**１５時０５分頃(地震から 19 分後)**

津波第１波到達は　１５時０７、８分(地震から２２分後)

津波第２波到達は　１５時４０分頃(第１波から３０分後)

津波によって堤防も倒されてしまった。

どこで津波を見たのか？→自家用車で逃げている途中約２００m先の橋が黒い濁流に飲まれた。

■何が身を守ったと言えるのか？

「何かあったら遠くへ逃げなさい」　亡くなった祖母の言葉

◎ 避難について決断できるように教えてくれた教育

◎ 地震と津波に関する教養

◎ 避難準備を優先した行動

その後の被災地

◎ 津波後は電話がしばらく繋がらなくなり、いわき市を出るまでなぜかtwitterには接続出来なかった。

◎ 避難所で放射能についての情報は皆無だった。

※一部の学校で１５日・１６日頃　屋内退避を指示

安定ヨウ素剤も一部の被災地で配られた程度

放射能からの避難　**いわき市→郡山市→栃木県宇都宮市→東京→大阪**

◎ ３月１４日朝　友人からの一報→東電の家族から得た情報

100ｋｍ県外へ避難するために長野へ避難するところだった。

◎ いわき市から郡山に避難して見たもの→「防護服」を来た職員と市民の日常風景

◎ スクリーニングを受けて→自分の体から放射線の反応が出た・・・

※スクリーニングの場で**限度量の３倍以上の被曝をしたカメラマン**がいた。

その時の値で１００００を超えると強制的な除染が必要になる。(シャワー室へいれられる)

■周囲への連絡

→話を信用して聞いてくれた者と福島県で起きていることや避難の決め手となった情報を話しも放射能の影響が少ないとして聞かなかった者にはっきりとわかれた。内部情報に関しては「そんなもの(ネットなど)どこにものっていない」と言われる。

関西の友人・先輩・後輩へ連絡

→無事を喜んでくれたのだが震災というものへの実感が薄くリアリティーに欠けると言う。

■何を信じたらよいのか？

◎ 誰の言った情報なのかきちんと判断する。

◎ 日頃からの人間関係が大きく影響する。

「地縁や血縁を超えた信頼関係がお互いを助けることになる。」

被災地の生活・経済はどのように回っていたか

中央卸売市場の若社長の言葉

「ここで避難してしまったらみんなが餓死する。自分で決めた人生だからしょうがない」→それでもいわき市民はラジオなどで開いてるスーパーを聞きつけ食料を買い付けるも被曝し続けた。

ある金融関係者の言葉

「逃げるなんて不遜です。ここで逃げたら日本の経済は混乱して今よりももっと多くの犠牲者がでてしまう。みんなそれをわかって逃げないんです。」

大阪に着いて

東京で家族と分かれて大阪に着いた。避難途中で買ったスウェット上下とたまたま持ち出したダウンジャケット一枚に髭もそらない格好で、日雇い労働者のような扱いを受けた。

その後は関西の多くの友人・先輩・後輩・恩師に助けられて生きながらえた。

23 年 3 月に友人の母よりギャラリーのお手伝いをさせていただける事になり、大阪市中央区に居場所を提供いただく。

平成 23 年 5 月　ウクライナ領事館へ問い合わせ、チェルノブイリを経験した方へ事故の状況について尋ねる。プルトニウムの飛散量は少ないがプルトニウムは危険。０．３μSV／ｈ以上の環境で生活していると健康に何かしら影響が出るので注意したほうがよい、とのアドバイスを受ける。

同月、立命館大学国際関係学部名誉教授　安斎育郎氏(東京大学原子力工学科第一期生)を訪ね、専門家としての事故の評価を聞く。終息まで 40 年～50 年、噂

話になるまでは100年かかるという。
両人から、なぜ、子ども達を避難させなかったのかわからない。と見識を頂く。
被災地から避難をしてきたこれらの出来事を伝える活動をまず初めに行い。
平成23年6月に岸和田市の土生神社　宮司　阪井健二さんと知り合い「東日本大震災を語り伝える集い」を毎月開いて頂いている。
※この時点でもまだ遠藤家家族は避難が完了していなかった。

平成23年8月報道カメラマン　冨田きよむ氏の講演会へ参加。冨田氏より彼の福島県取材をサポートしていた高野正巳氏を紹介いただき、ツイッターなどで連絡を取り合いながら
9月14日に滋賀県にて初めてお会いする。その時に以前より感じていた被災者が孤立している問題、福島県の置かれた状況が明らかにほかの都道府県のは違うため、福島県内外で確執が生まれていること。原子力災害が人と人とのつながりを不健全に断ち切ってしまうこと。福島を離れても福島とつながった形での人間関係を構築できるような動きや体制が、今後人間的な復興をしていく上では大切になること。などを確認して
避難者の孤立を防ぎ、お互いの自立を目指して、避難者当事者が自らが震災により抱えざるを得なくなった問題を解決していく為に、周囲と協力して問題解決の仕組みを作っていく団体「関西福島県避難者連絡相談会」(現　関西県外避難者の会　福島フォーラム)を結成。地道にネットワーク形成を行っていく。
平成23年11月23日　大阪の講演会にて被ばく医療を長年やられてきた村田三郎氏へ取りつないでいただき、避難者向けの医療体制づくりについて相談・具体的な検討を頂く。
同年12月26　日村田医師と再度打ち合わせを行い、24年2月より診察を開始するよう調整が完了する。大阪で初めての総合病院による開かれた被ばく医療検診がスタートした。
その他、被災者・避難者の方向けの内職「まけないぞう」をNGO協働センターと共に紹介するなど自立支援に結びつく方策を実施していく。
活動をする中でボランティアの限界を感じ、事業として展開していく道を模索するようになる。
それまでの実績と姿勢・あり方を基に24年2月に福島県大阪事務所の推薦を受け内閣府の地域共同モデル事業(福島県地域づくり総合支援事業)へ応募し、
平成24年4月より採択を受けて大阪市中央区に事務所を設けて活動をしていく。

現在の福島フォーラムの活動内容
〇避難者ネットワーク強化

・交流会の実施　毎月１回を予定
・相談業務　　随時
・避難者訪問　　毎月・随時　滋賀県生きがいづくり協議会と協力
・行政訪問　　随時
・メーリングリスト登録強化　随時
・ホームページ整備　随時

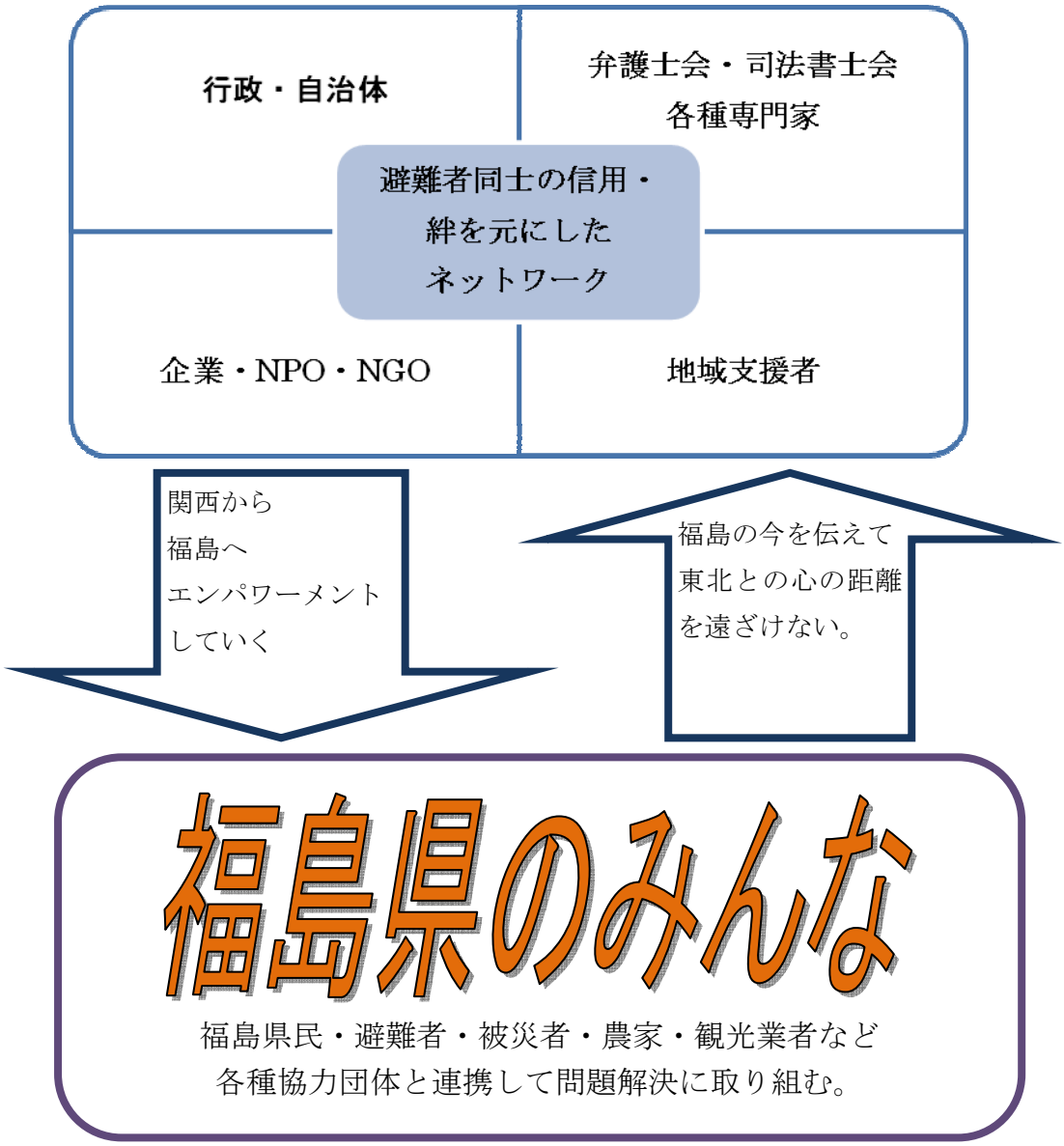
〇自立支援

・伏見桃山「子どもの家プロジェクト」　展開の準備中

・法律プロジェクト　毎月１回
　大阪弁護士会との連携
・健康診断調整会　毎月１回
　阪南中央病院　ろっこう医療生協組合との連携
・健康相談カウンセリング　毎月１回
・集団健康診断　民医連との連携　滋賀県　奈良県での実施
・職業紹介　株式会社アルバイトナビとの連携　随時
・医療勉強会　随時設定

〇福島とつながった活動(被災を伝える活動含む)
・福島訪問者アテンド　ホワイトレイヴンとの連携
・地域のお祭りでのブース出展　滋賀県長浜市　大阪市福島区
・幼稚園への野菜の送付　毎月
・被災経験を語る講演会　随時　大阪府神社庁との協力連携
　岸和田市土生神社にては毎月開催
　そのほか各行政・社会福祉協議会等より依頼。
　子どもセンター・高校・大学でも講演をしている。
・ガイガーカウンターの貸し出し　ホワイトレイヴンとの連携　随時
・追悼の会　関西 YMS との連携　毎月 11 日
・豊中市における被災者等の共同生活型就労支援モデル事業　随時

福島フォーラムで目指す枠組みのモデル



避難者を守ることは故郷を大切にすることと同じです。避難者の問題に対応して彼らの自立を助けることが遠方で私たちが故郷に対してしていかなければならないことです。

また、実際に被災した被災者が相談対応に当たることは被災者の気持ちに対して親和性が高い関係を築き上げることが出来ます。どうしても当事者間でしかわかり合えないことがありました。この当事者間でしかわかり合えない問題を周囲の行政・地域団体とのつながりをもったまま共有できる体制が、避難者が抱える問題を解決する上では必要です。

そして故郷とのつながりを断たずに、故郷を応援していきます。

こうした地域協働を私たちは目指していきます。どうか多くの命を助けられるように、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【団体名】関西県外避難者の会　福島フォーラム
【事務局】東日本大震災避難者サポート事務局　福島
【所在地】〒541-0048 大阪市中央区瓦町 4 丁目 6 番 8 号大阪化学繊維会館 6 F
【℡】06-4708 - 8787【FAX】06 - 4708 - 8778
【E-mail】fukushimaforum311@gmail.com
【HP】　http://fukushima-f.com/　【代表】遠藤雅彦